We ♥ よこすか

神奈川県議会議員

安川有里

やすかわ　　ゆり

大阪市生まれ、横須賀市浦賀在住
早稲田大学教育学部卒業後、フリーアナウンサー、ディレクターとして活動
結婚後は個別指導の塾講師として小学生～大学受験までを指導（社会・英語）
・県民企業常任委員会委員　美しい環境づくり審議会委員
・横須賀三浦稲門会常任幹事　NPO 法人横須賀港湾防災支援会会員
・認知症サポーター「キャラバンメイト」　こども若者応援団 団員
・BBQ 連盟認定エキスパート　趣味：クイズ　ハワイアンキルト　テニス

Topics ♥総選挙を振り返る　♥夢の架け橋 横須賀ステーション　♥障害児保育園

おばちゃん県議に聞いてみよう！④ ~おばちゃん県議が振り返る解散総選挙~

突然の解散総選挙のため、神奈川県議会は会期中にも関わらず議会日程が大幅に変更され、年末ぎりぎりまで延期されることになりました。安倍首相の自己都合による「今のうち解散」「国民そっちのけ解散」は、地方議会にも様々な影響を与えました（例えば、川崎市議会は一般質問の時間が半分になってしまったそうです）。

投票率が史上最低の 52%台となりました（神奈川県内は 53.35%　これも県内では過去最低でした）。戦後最低の投票率で、半数近い有権者が投票に行かなかったという事実はきわめて重いものです。与党の投票率が 40%だとしても、全有権者数に占める得票数の割合、絶対的得票率は 30%未満です。つまり**安倍政権は全有権者数の 3 割に満たない支持しか得られていない**ことを自覚しなければいけないと思います。今回は安倍政権の政策の選挙ではなく、安倍政権の信任投票であったと思いますが、3 割の支持で、2/3 の信任を得たとして政権運営をおこなうという事に、危惧を抱かずにはいられません。今回の結果について、それが小選挙区選挙制度だと言ってしまえばそれまでですが、安倍政権側は、有権者の政権への支持が全有権者の 3 割に満たなくても憲法改正を発議出来る議席、つまり 2/3 を与えてしまう事実にもっと関心を払う必要があるのではないでしょうか。

今回の選挙の結果を、真摯に受け止めた上で、与党に対して、これからどう対峙していくべきか、考えていきたいと思います。

『あなたが政治に無関心でも、あなたの生活は政治に無関係ではありません』

あなたが、無関心で、知らない間に決議された制度で、さらに高い税金を支払わされたり、あってはいけない理不尽な制約ができたり、自由な活動を規制されたり…。**主権は、私たち国民にあります。**でも、選挙権という、せっかくの権利を放棄してしまう人が多いので、世の中が一部の頭のいい熱心な人達に牛耳られ、その人達の都合のよいルールが作られ、都合の悪いことは分かりにくいように隠されてしまいます。一部の人達のみが勝ち組で、善良でおとなしい人達の多くが負け組としての生活を強いられています。本当にフェアで公平な社会をつくる為には、特定の団体や組織がバックで支援しているような政治家だけに任せるわけにはいきません。市民のひとり一人が、政治に関心を持ち、積極的に参加してこそ真の民主主義といえるのではないでしょうか。

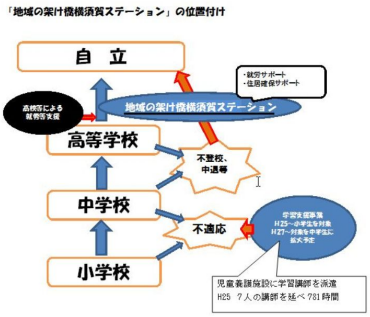
政治が大嫌いという方へ。その大嫌いな政治を変えたくて、私は県議会員になりました。政治を変えることが出来るのも政治だから…。私は、もっとみんなが関心を持ってくれるような、身近で解りやすい政治をめざしています。市民活動に積極的に参加し、多くの方々からお話を聴き、県政に声を届け、こまめに議員活動を報告することを心がけています。政治に関心を持つ人が、一人でも多く増えてくれることを願って…。

地域の架け橋 横須賀ステーション~施設入所中の子どもの自立を支援~

横須賀市が児童養護施設などに入所している子どもの自立のために「地域の架け橋 横須賀ステーション」を開設したという吉田市長のブログを読み、横須賀市の子ども・青少年に関わる行政関係を集約した拠点『はぐくみ館』にある児童相談所でお話を伺ってきました。

みなさんは、『児童養護施設』というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか？戦後は『孤児院』と呼ばれ、文字通り両親のいない児童が暮らす施設でした。しかし、現在孤児は少なく、虐待のために保護者から離れて生活する子ども達が入所者の 8 割以上を占めています。

横須賀市では、現在、養護施設・小規模ファミリーホーム・里親のもとに預けられている子どもが約 160 人います。彼らの多くは、社会に出る時に施設を退所しなければなりません。その多くは親元に戻る事が出来ずに、就職先と住まい探しをはじめ、すべて自分で決めなければなりません。



また、家庭での養育が充分でなかったことなどにより、自立するための能力が十分備わっていないことが多く、結果として、就職や住居の確保などが困難となり、生活基盤も不安定になりがちです。

そこで、『地域の架け橋 横須賀ステーション』では、就職を控えた子どもたちが、負の連鎖・貧困の連鎖におちいることなく、安定した収入を得て、将来、安心して家庭を持ち、子育てができるように就職などを支援するシステムです。今回、職の里親（就職を積極的に受け入れてくれる企業）24 事業所、協力不動産店（住居の斡旋など）23 事業者の方々にご協力いただき、この事業を始める事が出来ました。

これまでにも横須賀市では、小学生を対象に、社会的養護施設入所児童・生徒が、自信を持って社会に出ていけるよう、平成 25 年度から「春光学園」と「しらかば子どもの家」に、家庭学習の習慣づけを支援し、自立した社会人となれることをめざし学習指導講師を派遣しています。平成 25 年度は、7 人の講師が延 781 時間指導しました。今後、中学生も指導出来ればと、市の担当課の方が次の目標を語って下さいました。

子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう、すべての子ども達が自分の将来に希望を持てる社会にしてゆくために、今回ご紹介したシステムのような環境整備と教育の機会均等などを図るよう県にも提案していきたいと思います。

日本初の障害児保育園 ヘレン ～横須賀市こども政策アドバイザーの新たなチャレンジ～

横須賀市のこども政策アドバイザーで、日本初の訪問型病児保育事業で知られている NPO 法人代表理事・駒崎弘樹さんが、日本初の公的スキームを利用した障害児専門保育園「ヘレン」を今年 9 月に東京都杉並区に開園しました。開園のきっかけは、2 年半前。世田谷区の 1 人のママから「子どもに重い障害があり、どこも預かってくれない」という相談を受けたこと。代表理事の駒崎さんが、一緒になって探してみましたが、世田谷区どころか、都内でフルタイムで預かってくれる場所がなかったそうです。様々なモデルを模索し、2 年半の試行錯誤の末、ついに開園にたどり着きました。

障害児保育に関しての、社会的背景は以下の通りです。

フルタイムで働く母親の雇用率を比較すると、健常児の母親が 34%に対し、障害児の母親は 5%、およそ 1/7 です。就労を希望しながらも働けない障害児の母親が潜在的に存在しているのです。現在、児童福祉法に基づく障害児向けの日中通所施設（児童発達支援）があります。利用者は費用の 1 割負担のみで利用が可能です。しかし、短時間の利用を想定しているため、長時間の預かりには国の補助金が足りないため、経営上困難だと考えられています。

そこで、フローレンスの障害児保育事業部は、「障害児と就労を希望する保護者を支える、新しい保育園」を提案しました。長時間保育に対応・医療的ケアに対応・療育の実施の 3 本柱で、「障害の有無に関わらず全ての子どもが保育を受け、保護者が働くことを選択できる社会」の実現をめざして誕生したのが、障害児保育園「ヘレン」です。

荻窪の静かな住宅街の中にある「ヘレン」。現在重症心身障害児の「うみぐみ」5 名、知的障害児・肢体不自由児の「そらぐみ」5 名（定員 10 名）が、在籍しています。スタッフは管理者 1 名、児童指導員・保育士 5 名、看護師 2 名、作業療法士 1 名と常時 11 名前後、ほぼ 1:1 で保育が行われています。

横須賀市でもフルタイムで働くお母さんのために、長時間預かってくれる障害児保育園がのぞまれます。駒崎さんに是非アドバイスを頂いて実現できるといいですね。

＊詳細はホームページのブログをご覧下さい

安川有里（やすかわ　ゆり）政務活動事務所（京急久里浜駅前）
〒239-0831　横須賀市久里浜 4 丁目 5-4　久里浜ビル 3F　TEL/FAX 046-838-3389

安川有里　検索

ホームページで『議員活動の見える化』に挑戦！ブログをはじめ SNS 随時更新中！